

富士中央小学校訪問実習レポート：
提案授業に関する一考察

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻 公開日: 2013-04-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長崎, 榮三, 山本, 真人, 益川, 弘如, 矢崎, 満夫, 相澤, 秀篤, 小笠原, 忠幸, 小川, まゆ, 神田, 憲興, 黒柳, 友義, 後藤, 聡, 速水, 二葉, 三上, 聡, 山崎, 健史 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/7308

富士中央小学校 訪問実習レポート

～提案授業に関する一考察～

静岡大学教職大学院 ◎教授 長崎榮三 ◎准教授 山本真人 益川弘如 矢崎満夫
○院生 相澤秀篤 小笠原忠幸 小川まゆ 神田憲興 黒柳友義
後藤 聡 速水二葉 三上 聡 山崎健史

1. 授業の概要

- (1) 授業日 平成 23 年 11 月 9 日 (水) 第 3 校時
- (2) 授業者 三宅教諭
- (3) 教科・領域等 総合的な学習の時間 (レインボータイム)
- (4) 学級 5 年 組
- (5) 単元名 「目の不自由な人たちと一緒に」(30/50)
- (6) 単元を通して育てたい力 (一部略)
 - ①視覚に障害をもちながら明るく前向きに生きている方の生き様に触れ、障害をもつ方の生活について調べたり、障害の疑似体験をしたりする活動を通して、自分の生き方を見つめ直し、周りの人や自分を大切に思い、前向きに生きていこうと考えることができる。
 - ②障害をもつ方が生活しやすい施設を見学したり、道具を見たりする活動を通して、人がすべての人の生活しやすいように様々な工夫をしていることを知ることができる。
- (7) 本時の目標
「Aさんは本当に楽しかったのだろうか」という、B君の疑問について話し合う活動を通して、Aさんとのこれまでの活動を振り返り、感じてきた思いを出し合い、これからの活動をAさんの立場で考えていこうとする。


2. 視点①「半年間のAさんとの交流活動の成果と課題」

- (1) 「総合的な学習の時間」として「半年間のしさんとの交流活動」はどうであったのか。
成果：「明確な目標」と「教師の意図的な働きかけ」
この「レインボータイム」の学習は、「子どもたちに、世の中にはいろいろな方がいて、その方々がそれぞれおかれた場所や立場で一生懸命前向きに生きていることを感じ、自分たちの生き方を問い返し、前向きに生きていける力を育てたい」という授業者の願いを出発点としている。これが、この「レインボータイム」の「どのような児童を育てたいのか、どのような資質や能力及び態度を育てようとするのか」という目標となっている。
そして、身近な「すてきな人」との出会いを設定するという「教師の意図的な働きかけ」によって子どもたちの心が揺り動かされている。全盲であっても前向きに生きている「Aさん」の生き方を理解したいという、この単元を貫く学習課題となっていることがわかる。
このことから、本単元の「すてきな人と出会う」仕掛けは、本校の研修テーマである「学び合う授業～仕掛けて待つ教師のあり方～」につながる「学習対象とのかかわり方や出会わせ方」であったといえるだろう。
また、「すてきな人と出会う」という活動を3年生で経験していることから、既存の学習経験が、子どもたちに学習方略の参考となっている。児童が安心して学習に取り組める学習経験への配慮があり、その経験や成果が生かされていることも優れた実践であることを証明している。
これらのことからわかるように、本実践は、本校が目指す「子ども理解をもとにした、子どもたちがくいつく課題を見つけ、子どもたちが安心して発言して学び合い、一人一人に

力を付ける授業」を具現化する実践となっている。

3. 視点②『目指す授業像』に近づいているか

富士中央小学校では、めざす授業像として以下のように捉えている。

- 子どもの思いにもとづいた授業（思い・願い・問いがある：主体性）
 - 子どもが一步前に動き出す授業（意図のある語り掛け・働き掛け）（課題を追求する：個の追求）
 - 自分の思いを伝え合い、つなぎ、学び合う授業
（相手の思いを受け止める温かな聴き方をする：学び合い）
- 
- 具体的で多様な子どもの姿をイメージした取り組み【仕掛け】

また、5年の子どもたちと三宅先生とで話し合い、設定した学級のめざす授業像は次の通りである。

心のバトンリレー ～みんなで協力、進んで反応、笑顔があふれる5年 組

これらの視点を踏まえ、本時の授業がどうであったか、教師の手立てや働き掛けなどの「仕掛け」を中心に考察してみたい。

(1) 子どもの思いにもとづいた授業 → 子どもの問いから出発した授業

半年間のAさんとのかかわり合いについて写真を見ながら振り返り、子どもたちが楽しかったという思いをもったところで、三宅先生がある子が感想に書いてあったことをみんなで考えてみたいとBくんの疑問を取り上げた。「Aさんは本当に楽しかったのだろうかという問いを、Bくんがもっているなんて意外だ。そんなことを考えたこともなかった。」というような雰囲気が教室に流れた。Bくんの様子から、この子がこの問いを深く考え、もち続けていたかどうかということについては定かではないが、今まで当たり前のようにAさんと接してきた子どもたちが、ふっと立ち止まってAさんの気持ちを考えるよいきっかけになったことは確かである。教師から与えられた課題ではなく、友達がもっていた問いからスタートしたことで、自分の微妙な心の動きを正直に発表する授業が展開されたのではないだろうか。

(2) 子どもが一步前に動き出す授業 →子どもが自分の気持ちの変容をメタ認知できる手立て →意図のある働き掛け

「Aさんは本当に楽しかったのだろうか」という問いに対し、「楽しかった」「楽しくなかった」という2択ではなく、5段階評価にしたことで、子どもたちは自分の迷いや変容を感じながら学習を進めることができた。5段階の数字に○を付けた後、友達の根拠を基にした発言を聞くことによって数字を変えている子が多かったことから、友達の考えをじっくりと聞き、自分が今どんな気持ちになったのかを確かめたり、自分の気持ちが揺れ動いていたことを感じたりできたのではないだろうか。

(3) 自分の思いを受け止める温かな聴き方 →自分の思いを伝え合い、つなぐための切り返し

話し合いが始まると、子どもたちの意見は「楽しかった」という方向に傾いた。そのとき先生が、「今、楽しかったって意見が多くなってね。先生見てみると、1を付けた子は一人もいなかったね。でも2は7人の子が付けてるよ。2に付けた子、何か言ってくれる？Cさんどう？」と促した。「散歩のとき、ふざけてけがをした人がいたから楽しくなかった」という意見がCさんから出される。続けて先生が、「友達の考え聞いて変わったって意見でもいいよ。」と声を掛けると、最初は4や5に付けていた子たちも「楽しくなかった」という意見を続けていった。さらにここで、本時のキーパーソンであるDさんの意見が出された。

「口だけで楽しいと言ってるだけかもしれない。心の中までは分からない。楽しかったと断定するのはよくない。」

そこで先生が、「今のDさんについてどう思う？」と切り返し、そこからDさんに賛成する意見が続く。先生がこのように意図的指名を取り入れながら子どもたちの意見をつなぐための切り返しができるのは、机間指導による丁寧な見取りがあるからこそである。子どもたちがワークシートに書いた意見に対して問い掛けたり、○を付けて認めたりしていく中でそれぞれの考えを把握しているから、子どもたちの話し合いの流れを予想し、切り返ししていくことができるのではないだろうか。

以上のように、本時の授業では、教師の仕掛け（Bさんの問いに着目してそこからスタートしたこと・子どもの気持ちの変化が表れやすい5段階評価にしたこと・メッセージビデオによる意図のある働き掛けをしたこと・子どもたちの意見をつなげるために有効な切り返しをしたこと）により、めざす授業像に近づいていたのではないかと考えられる。

4. 視点③「本時の授業を通して、Aさんの立場でこれからの活動を考えていこうとする思いをもつことができたか」

(1) 「楽しかった」か「楽しくなかった」かで「揺れる」子どもたち

「Aさんは本当に楽しんでくれているのだろうか」という問いに対して、抽出児童6名中4名が、本時の中で自分の5段階評定を変更している（Eさんについては、実際の変更はないものの、観察者に「4から5に近づいた」と述べている）。「自分の見立てが変わる」ということは、「他者の考えを自分の考えに影響させているから」と考えられることから、この「揺れ」は、「Aさんのことを思いながら自分たちの活動を振り返る」という、本時の「学び」を深めている姿ではないかと考えられる。

(2) 「原因」になったBさん

さて、本時の問い「Aさんは本当に楽しんでくれているのだろうか」は、Bさんの過去の記述から授業者が採用したものである。Bさんにとって自分の問いが取り上げられるのは寝耳に水だったことは間違いない（観察記録より）が、Bさんの問いが授業者によってクラス全体に広げられたことによって、Bさん自身もあらためてその問いについて考え、他者の意見を聞き、自分の評定を4→2→4と変更させている。

授業一般においておとなしい（らしい）Bさんであるが、授業者のアシストで、クラスの学びの「原因（きっかけ）」になったことで、直接的な表現は少ないものの、より学びが「主体的に」なったのではないかと推測される。それは、観察記録の「自分の写真が紹介され顔を伏せるが笑顔」「友達の発言を腕を組んで静かに聞いている」「今までの活動を記録したカードを何度も見直している」などの動きからとらえることができるだろう。「学びを巻き起こした原因になった」という経験は、Bさんにとって有形無形の影響を、今後与えるのではないだろうか。

ところで、Bさん自身は、「Aさんは本当に楽しんでくれているのだろうか」という疑問をもっていたのであるが、ワークシートへの最初の評定は「4」であった。つまり、「Aさんは本当に楽しんでくれているのだろうか」「楽しんでくれているだろう」と自問自答していることになる。しかし、課題提示場面での授業者の問いかけ「Bさんなんでそう考えたの？」に対して、「つまんなそうだった…つまんなかったわけじゃないと思うけど…」と発言している。この発言は、その後ワークシートに4評定を記入することと、「ズレ」があるように見受けられる。ここをどうとらえるか…。

おそらく、Bさんは、「自分とAさんとのかかわりの中で、Aさんが楽しんでくれているの

か心配であり、みんなとAさんとのかかわりの中では、Aさんは楽しんでくれているだろう」と考えていたのではないだろうか。Bさんは、本時の初めに提示された写真にあるように、以前の活動でAさんを誘導する役をやっている。授業者の話（事後研）によれば、そのときBさんは誘導を間違えたりして、うまくいかなかったようである。そんなBさんの経験を加味して考えると、Bさんの問い「Aさんは本当に楽しんでくれているのだろうか」は、クラスのみんなへの問いかけではなく、Bさん自身の個人的な問題だったのではないかと推測される。それがクラスを巻き込む「原因としての問い」となったものだから、「つまんなそう」と言いながら4に評定するという、どうも自己矛盾しているようなあらわれになったのではないかと考えられる。つまり、「つまんなそう」は「自分とのかかわりにおいて」、「楽しそう」は「クラスでのかかわりにおいて」という区別を、自然とつけていたのではないだろうか。そうとらえることで、先の矛盾に意味を見出すことができるように思われる。

そういう意味でBさんの思いをとらえたとき、Bさんは本時を通して、「自分とクラスとAさん」をより密接に結びつけることができたのではないかと考えてみたい。「自分はうまくやれてないけど、クラスとの交流は楽しんでいるはずだ」と思い、初めに評定4をつけたBさんが、他者の発言によって、「クラスのみんなどとも楽しんでいないのかもしれない」と心配になり、評定を2に変更する。自分が予想していなかった形で自分とクラスのみんなどが近づいてしまう。そしてAさんのビデオメッセージを通じて、「楽しんでくれていたんだ」とあらためて感じ、クラスのみんなどといっしょに自分自身も引き上げられ、再度評定を4にする。もしかしたら、Bさんにとって、初めの「4」と最後の「4」は、意味合いが違うのかもしれない。このような内面の動きは、Bさんの振り返りの記述からも推測できる。

こうして考えたとき、本時の原因となったBさんは、「今後、もっと楽しんでもらいたいという思いをもてたのではないかと／本時はBさんにとって大変有意義であった（観察記録）」ととらえることができるのである。

(5) まとめにかえて

Aさんの思いを察する、自分たちの活動を振り返り見つめなおす、これからのかかわりのあり方を考えるという、子どもたちの学びの姿がたくさん見られた授業でした。また、「その子なり」の深まりをしている姿が、特にBさんやDさんの観察からとらえることができました。子どもたちの問いから出発し、意図のある働きかけをしていったことで、子どもたちの意味ある学びが展開されていた、といえると思います。

こうして、子どもたちは、よりAさんのことを思い、よりよい活動を行っていくでしょう。本時のように立ち止まって見つめなおす経験をした子どもたちですから、また折に触れ、立ち止まって考えてみることで、子どもたちの思いをもとに授業を組みながらも（授業者は事後研（グループ研）で、子どもの思いや動きを見ながら、毎回「出たところ勝負」だと言っていました）、「単元を通して育てたい力」、すなわち「本質」に迫っていく方向を子どもたちで見出し共有することができるように思います。例えば、次のようななげかけを通して。

- ・「Aさんから何を学ぶことが私たちにとって1年間Aさんとかかわった意義になるのだろうか」
- ・「Aさんを招いてAさんとともに楽しく活動することだけでよいのだろうか」
- ・「私たちはAさんから何を学んだのだろうか」

この度は、貴重な授業を参観させていただき、また考察させていただくことで、私たち院生にとって、学ぶところが数多くありました。誠にありがとうございました。